鯖江高等学校
Regional Collaboration
地域協働ニュース
2021年10月21日(木) 第11号
SABAE HIGH SCHOOL
NEWSLETTER

鯖江市 SDGs 探究プロジェクト

～総合的な探究の時間～

令和３年 10 月 18 日(月)，普通科２年生が６人前後の課題探究 34 グループ・動画作成１グループに分かれ，鯖江市内で働く人々への取材を通して，持続可能な社会の実現に向けた鯖江市の課題を見つめ，高校生としてできることを考え実践していく探究活動を行いました。

事前に鯖江市や企業の取り組みについて調べ，聞きたいことをグループでまとめ，来校いただいたりオンラインや各事業所・商工会議所で，各グループ 25 分間，事前にまとめた内容の他，話を聞きながらより掘り下げて知りたいと思ったことなどをインタビューしました。

インタビュアーの学び・気付き

担当の方には一つ一つ丁寧に，実体験などを交えながら質問に答えていただき，生徒たちは生の声に興味深く楽しそうに聞き入り、良い刺激となっている様子でした。気さくに受け答えをしていただき，堅苦しくないながらも生徒の質問に熱心に答えていただき，終了予定時刻を過ぎても交流が続くグループもありました。

また，生徒たちのインタビューに答えるだけでなく，生徒それぞれに考えさせて意見を述べさせるなど，生徒がその場で活動できるよう工夫していただいたり，質問につまった生徒には，逆に色々質問を投げかけていただいたり，皆さんに助けられながら，多くの学びの場となりました。

鯖江の伝統産業・眼鏡製造業にインタビューしたグループは，原材料や細かな部品の製造・加工の過程，流通に関することや，今どういう商品が求められているかなど，丁寧に詳しく教えていただき，伝統を守りながら新しいことにチャレンジし続ける鯖江の企業努力などを知ることもでき，今地域に支えられている自分たちが，地域を支える立場になる未来図を創造し得る有意義な時間となりました。

自分の知識や経験が豊かであれば，相手からより意味のある情報を引き出す質問ができるという気付きもあり，今学校で学んでいることを将来どのように活かしていくことができるか，改めて考えるきっかけにもなったと思います。

そして，お忙しい中時間を割いてくださったことに対する感謝の気持ちや，関心や尊敬，信頼の念をもってインタビューさせてもらうことによって，より生きた情報，より深い情報を得ることができると手応えを感じていたようです。

伝統を重んじるグローバルな人材育成

それぞれインタビューを終え教室に戻った生徒たちは，いただいた資料やインタビューメモを整理し，11 月 19 日(金)の中間発表に向けてスライドや原稿の作成に取り組みました。自主性・協調性・主体性などが求められるグループワークに夢中に取り組み，グローバルな人材育成の観点からも大きな成果が期待される活動となりました。

SDGs

鯖江高等学校
Regional Collaboration
地域協働ニュース
2021年11月8日（月）第12号
SABAE HIGH SCHOOL
NEWSLETTER

第1回運営指導委員会ならびに公開授業を行いました

～2年探究科 課題研究 中間発表会～

令和３年 11 月２日（火），地域との協働による高等学校教育改革推進事業第１回運営指導委員会ならびに公開授業を行いました。今回の公開授業では，２年探究科の授業を参観していただきました。

理系・文系に分かれ，各個人または 2～3 人のグループが，それぞれのテーマについての問いを設定し，仮説（予想）を立て，実験や調査によって結論を導きだすという課題研究の中間発表会を行いました。スライドにまとめた内容をスクリーンに映し出し，もち時間５分での発表会でした。生徒たちはやや緊張した面持ちながら，大勢の前で発表をするということに慣れてきた様子でした。

課題研究のみちしるべ

発表毎に仁愛大学の西出先生・織田先生・高野先生に，良かった点や改善すると良い点などをポイントを押さえて助言していただき，これからの課題研究に明確な道しるべをいただきました。

「効率の良い換気の方法とは？」という問いを立てた生徒は，コロナが流行している中で換気の重要性に着目しました。一時間に一回，教室の換気を行って二酸化炭素濃度を測定し，データを基に換気は重要であるという結論を出しました。また室内に滞留する二酸化炭素の危険性を調べ，今後効率の良い換気方法を実験していきたいということでした。

西出先生より，将来自分が行きたい方向からテーマを選ぶのはモチベーションも上がりとても良いこと，データを基に数値化する再現性はとても重要で，結果に客観性がもてて大変に説得力がある，との言葉をいただきました。また，問いに対して導き出した結果が問いの答えになってない場合には迷わず問いを変えればよい，との逆転の発想には生き方が楽になるような精神論も含まれていたように思います。

探究活動では，コミュニケーション能力やいろいろな力が知らない間についている，これからの活動を楽しみにしているとのエールをいただきました。

公開授業を運営指導委員会の方々にさまざまな観点・角度から参観していただき，運営指導委員会ではそれぞれの立場から以下のような指導・助言をいただきました。

問題点をえぐりだす

- この探究活動を，学習として単にやったというだけではなく，是非公表をしてもらいたい。そうすることによって企業から評価をいただき，課題に取り組んだ責任を果たすことになる。
- 課題を見つけるテクニックは上手くなったが，自分と周りとの関わりが見えづらかった。自分と地域社会との関係性を考えられると，自分たちで課題解決に挑み社会をつくろうとする。
- 質問者は手を挙げて自主的に質問をするべき。的確な質問をして，相手をやりこめるのではなく，問題点をえぐりだすことが重要。

今後またこれらのご意見を取り入れながら，地域協働事業が充実したものとなるよう取り組んでまいります。

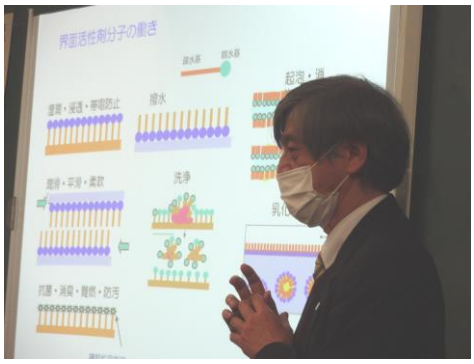
鯖江高等学校 Regional Collaboration
地域協働ニュース
2021年11月18日(木) 第13号
SABAE HIGH SCHOOL NEWSLETTER

「高分子」は身近な素材　～日華化学の技術に学ぶ～

３年 化学 特別授業

令和３年 11 月 17 日(水)，３年生の化学の授業で「高分子」に関する特別授業を行いました。講師として日華化学株式会社より界面科学研究所フェローの松田光夫氏をお招きし，これから授業で扱う「高分子」について興味をもって学習していけるように，高分子にはどのような特徴があり，どのように活用され製品化されているのかなど，実際に日華化学で取り組んでいることについて講義をしていただきました。

繊維加工と高分子



日華化学では，有機合成・高分子・界面制御技術を使って，さまざまな製品開発を行っており，今回の特別授業では，これから学ぶ「高分子」の内容に合わせて，繊維加工について，その特徴や製品などについて説明をしていただきました。すでに学習した「親水基」と「疎水基」のはたらきを復習し，それらの配列を変えることで，「湿潤・浸水」と「撥水」や，「起泡」と「消泡」のように逆の効果を発生させたり，「洗浄」や「乳化」，「潤滑」，「抗菌」など目的や用途に応じて様々なはたらきのものを設計して作り出すことができることを教えていただきました。また「モノマー」と「ポリマー」を人の形の図で表して分かりやすく解説して，様々な高分子の構造について基本的なことを教えていただきました。現在，日華化学で開発している繊維加工について，これらの仕組みがどのように使われているのか，それによりどのような効果があるのかを，具体的に説明していただき，授業で学習する「化学」の内容が，身近なものに応用され，実際に社会や人々の生活に役に立っていることに気付くことができました。「シリコーン系柔軟剤」では疎水基を外側に向けて配列することにより，疎水基同士の滑りあいにより摩擦係数が低減し，柔軟な感触を与えることできることや，「綿用染料固着剤」では染料とフィックス剤がイオン結合によりしっかりと固着することなどを，分かりやすい図を使って解説していただきました。

つくる責任　つかう責任

製品開発の一方，高分子の課題についても説明していただきました。高分子化合物であるプラスチックは自然には分解されず，海洋プラスチックごみ問題など，世界規模で問題となっています。SDGs の目標でもある「つくる責任 つかう責任」を考え，日華化学でも環境に配慮した研究や製品開発にも積極的に取り組んでいることを説明していただきました。そしてサスティナブルな世界を実現する手段として「電気を通す高分子」や「生分解性の高分子」，「命を救う高分子」の開発など，いくつかの例を挙げて高分子の未来について提言をしていただきました。

生徒から質問

生徒から「部活動で使っているサポーターが蒸れて不快なのですが」という質問が出されました。それに対してサポーターの素材と蒸れる原因について説明していただき，水は通さないが水蒸気は通す素材があるので，今後はサポーターなどにも応用できるかもしれないと教えていただきました。また蒸れることでにおいが発生したりするが，菌をコントロールする素材も開発されているので，その技術も応用できるかもしれないと付け加えて答えていただきました。

鯖江高等学校 Regional Collaboration
地域協働ニュース 2021年11月22日(月) 第14号
SABAE HIGH SCHOOL NEWSLETTER

地域との協働授業「みんなの未来にエシカル消費」

～2年探究科英語～

令和３年 11 月 10 日（水），２年探究科英語の授業に，鯖江市役所総務部の山田眞美子氏，森川瑞代氏をお招きし，地域との協働授業を行いました。生徒は英語教科書の "What Is the True Meaning of Mottainai?" という単元で学んだことに対する考えを深めると同時に，世界規模の問題と身近な問題のつながりについて考え，教科書の内容が現在実社会でどのような広がりをみせているかについて学びました。

キーワードは【エシカル消費】

“使い捨ての箸の使用を全てやめるべき”“エコバッグを使おう”など，環境に優しいとされている事柄は，果たして全て正しいでしょうか。環境問題を一時的な流行としてでなく科学的にとらえ，消費者としてどのように考えて行動すべきかを，これまでの英語の授業で学んできました。今回の講義では，人や社会，環境，地域に配慮した物やサービスを選んで消費する【エシカル消費】をキーワードに，教科書の内容の復習と，実例を交えながら鯖江市の取り組みについて学びました。

What Is the True Meaning of Mottainai?

「もったいない」を意識することは今やトレンドとなっていますが，その本当の意味を理解しているでしょうか？という問いから講義は始まりました。

今まで割り箸を使うことは森林破壊につながるといった認識がありましたが，樹木を間伐することにより立派な丸太を育てたり，森林の整備や林業の活性化，また地滑りを防ぐなどの効果もあります。実際鯖江市は，建築などに使えない端材や間伐材を活用し割り箸を作る事業に取り組んでいて，実物も見せていただきました。

また“エコバッグを使う”ことは当たり前のように推奨されてますが，実際はエコバッグを生産するためにより多くの石油を必要とする場合があるということでした。現在は石油資源の節約と CO2 削減が実現できるバイオマス素材配合率が 25%以上の買物袋もあり，実物を用いて紹介していただきました。

こうした観点から，我々消費者がとるべき行動の一つとして，環境問題などに配慮した商品につけられる様々なエシカルマークを知り，そのマークのついた商品を購入することを学びました。マークを一つ一つ紹介いただき，たくさんの身近な商品を手に取ってマークを確認したり，エシカルマークのチャレンジマップ作成のグループワークを行ったりしながら，生徒たちは、更に環境問題やエシカル消費への意識を高め、自分達の行動について考えを深めました。

生徒の感想より

●実物を用いての解説が，イメージがつかみやすく理解しやすかった。これからはマークの付いた商品を探して買うようにしたい。

●今まで想像もできなかった観点から，環境について考えることができた。自分たちができることをコツコツ行い，未来の自分たちが生きやすい世界を，自分たちでつくっていきたい。

鯖江高等学校
Regional Collaboration
地域協働ニュース
2021年12月1日(水) 第15号
SABAE HIGH SCHOOL
NEWSLETTER

「鯖江市 SDGs 探究プロジェクト」中間発表会

～普通科 2 年生探究活動～

令和 3 年 11 月 19 日(金)6・7 限目に，普通科 2 年生「鯖江市 SDGs 探究プロジェクト」中間発表会を行いました。アドバイザーとして鯖江市役所総務部より高崎課長・川江参事，鯖江市役所政策経営部より田中課長・藤田主査，さばえ SDGs 推進センターより関本所長・仲倉副所長の，6 名の方にお越しいただきました。

6 会場に分かれ，1 グループが，発表 6 分→質問 2 分→助言 4 分→評価感想記入 3 分の 15 分サイクルで報告を行いました。進行は生徒たち自身が行いました。

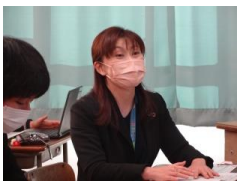
10 月の取材でお世話になった事業所の方や学校関係者など多くの方に参観していただき，発表についての助言・感想を付箋に書いていただきました。様々な角度からの評価は，最終発表会に向けて生徒一人一人がバックアップされ，より意味深いプロジェクトになると感じた発表会でした。

鯖江市が抱える問題について

全 34 グループが選んだテーマは，めがね産業について，ジェンダー平等について，フードドライブについてなど，全て地元鯖江市で取り組まれている活動であり，その背後にある問題に着目しています。

「鯖江市の女性の働き方」をテーマに発表したグループは，10 月に川江参事と株式会社わどうの山岸社長にインタビューした経験を踏まえ，「女性の働き方や子育てについての，歴史と鯖江市の現状。ジェンダー平等や女性活躍のために，自分たちはどうすればよいか。」について発表しました。

「なぜ女性を活躍させたいのか？」という疑問に「自分目線の活躍でなければ生きづらくなる，そのため自分目線での活躍が大切。」という回答をいただいたため，“自分でやりたいことを見つけるほうが将来幸せになる。自分自身でやりたいことを選び，自分のしたいことに挑戦することが大切である。”と，まとめました。山岸さんが見に来てくださっていることに気づいた生徒は，発表を終えてすぐ「発表どうでしたか？」と，生き生きとした表情で駆け寄りました。山岸さんから「一番大切なところを自分たちでしっかり整理してまとめられていて，正直驚いた！」というお褒めの言葉をいただき，生徒たちもほっとした様子でした。地元の方が生徒たちの可能性を最大限に引き出す色々な工夫を凝らして一緒に考えてくださるなど，多くの温かい支えがあってこそのプロジェクトだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。



助言・感想の一部

●現状を改善するために，高校生として地域や社会を巻き込みながら何ができるかを示せるとさらに良かったと思う。

●鯖江は，眼鏡の政策はよく聞くが，目を良くしようとする動きは初めて知ったので新鮮だった。眼鏡をつくる街だからこそ，目の大切さをよく分かっているのだろうと感じた。

●インタビュー内容はとても良かったと思う。課題解決の焦点がもう少し明確に絞れると次の一歩が見えると思う。

●発表中の「家事を手伝う」は「家事をシェアする」に変更すべき。家事にジェンダーがないことを理解しよう。

●自分たちの研究の焦点(なぜ自分たちは～について調べたいのか?)を大切にしてほしい。

●強調したい大切なメッセージだけは，文字を大きくするなど強調して力強く発表すると，聞いている人に大切なポイントが伝わる。

鯖江高等学校 Regional Collaboration
地域協働ニュース
2021年12月13日(月) 第16号
SABAE HIGH SCHOOL NEWSLETTER

放射線とはどのようなもの？　～放射線の観察～

３年 生物 特別授業

令和３年 12 月７日(火)，３年生の生物の授業で「放射線」に関する特別授業を行いました。講師として日本原子力発電株式会社より佐藤壌氏と池田龍子氏をお招きし，環境教育の一つとしてこれまでに授業で学習した「放射線」について，正しい知識と興味をもてるように，実験と観察を行いながら特別授業をしていただきました。

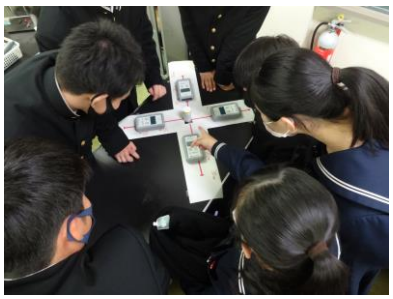
自然界に存在する放射線

最初に，佐藤氏に放射線について授業の復習も兼ねて，基礎的な知識から説明をしていただき，放射線が特別なものではなく，身近に存在していることを教えていただきました。まず，放射線は自然界に存在していると説明を受けました。放射性物質は大地や空気中にも存在し，宇宙からも届き，食物中にも含まれているもので，私たちは常に放射線を受け生活していると教えていただきました。また一般的には危険なイメージがある放射線ですが，医療器具の滅菌やがん治療，Ｘ線検査などの医療分野や，タイヤのゴムの強化，土器の年代測定，ジャガイモの芽止めなど，様々な分野で広く活用されており，私たちの生活に非常に役に立っていることも教えていただきました。

放射線を観察しよう！

実際の放射線は目に見えないものですが，過冷却したアルコールの蒸気の中を放射線が通過すると，その軌跡が目に見えるので，放射線の動きを観察することができます。そのための実験装置「霧箱」を自分たちで作って観察する方法を池田氏に指導していただきました。実験装置はプリンカップやウレタンテープなど，身近な材料で比較的簡単に作成できるので，生徒たちも楽しみながら作成していました。しかし，いざ放射線の観察をしようとすると，うまく見える班とそうでない班があり，なかなか苦戦していた班も多かったようです。でも実際に放射線が四方八方に飛んでいく動きが観察できて，生徒たちは声を上げて喜んで観察していました。

放射線を遮断するには？



次に，放射線は飛散する距離によって減衰し，遮蔽するものによって透過する度合いが異なることを確かめる実験を行いました。放射線源から４方向に放射線測定器を設置し，距離が離れるにしたがって測定値が小さくなることと，放射線源に４種類の板で作られた遮蔽物をかぶせ，それぞれの方向で測定値が異なることを確かめました。

正しい知識で，正しい判断

生徒たちは，この特別授業で，放射線に関する正しい知識を身につけることができたようでした。授業の最後のあいさつでは「今日はいっぱい放射線について学べてよかったです。私は将来，放射線のある所の近くで住むのなら，鉛で家を作りたいです。」とユーモアを交えて謝辞を述べ，非常に楽しい中にも，貴重な経験ができた充実した授業を受けることができました。

鯖江高等学校 Regional Collaboration
地域協働ニュース
2021年12月17日(金) 第17号
SABAE HIGH SCHOOL NEWSLETTER

「眼育（めいく）さばえ」ビジョントレーニングを体験！

～普通科２年生　ＳＤＧｓ探究活動～

令和３年12月16日(木)の午後に，普通科２年生「鯖江市SDGs探究プロジェクト」の活動で「眼育」をテーマにしているグループの生徒（３９名）が，目の健康体操やビジョントレーニングなどの体験をしました。「眼育」とは鯖江市が「めがねのまち」は「目にもやさしいまち」でありたいという思いから取り組んでいる活動で，今回は鯖江市と連携して活動するＮＰＯ法人「みるみえる」の方々にお越しいただき，生徒たちに直接ご指導をしていただきました。

まずは目の健康体操

まずはじめに，ビジョンインストラクターの坂井晴香氏に，鯖江市オリジナルの「目の健康体操」を準備運動としてご指導していただきました。生徒たちは坂井氏の動きに合わせて腕を前に出し，親指を立てて，親指にしっかりとピントを合わせて眼球だけを動かすなど，楽しそうに体全体を動かして，これからのトレーニングに向けてしっかりと準備体操に励みました。

いざ，ビジョントレーニング！

ビジョントレーニングは専用の機器を使い，大型モニターに映し出される映像を指でタッチするトレーニングが何種類かあり，動体視力や空間認識などの能力を測定し，トレーニングすることができるものです。このトレーニングで脳を活性化させ，集中力や判断力を鍛えることができ，スポーツ選手のトレーニングにも活用されています。インストラクターの橋詰公人氏の指導のもと，８人程度のグループごとに順番でビジョントレーニングの体験をしました。生徒たちは楽しそうに，また真剣に取り組んでいて，測定結果や判定が出るたびに歓声が拍手が起こっていました。中にはプロのスポーツ選手並みの測定結果を出した生徒もいて，非常に盛り上がった体験活動でした。

ブロックストリングスも体験

ビジョントレーニングの順番が回ってくるまでは，加藤裕之氏のご指導のもと，丸い球を通したひもを使って，二人一組になって，ブロックストリングスの体験を行いました。ブロックストリングスは両眼が正常に働いているかを知ることができ，両眼視を鍛えることができるトレーニングです。はじめのうちは，生徒たちはなかなか分かりにくそうでしたが，やり方が分かってくると，ひもについている丸い球に視線を集中させて，真剣に取り組んでいました。

～ 生徒の感想 ～

- ビジョントレーニングをしてみて，画面上の点が見えていても的確にタッチできなかったり，空間認識では正確な場所を絞れなかったりしたので難しかったです。
- テニスは動きながらボールを追うので，空間認識や動体視力が大事です。これから見え方を意識したトレーニングもしていきたいです。

鯖江高等学校 Regional Collaboration
地域協働ニュース 2021年12月21日(火) 第18号
SABAE HIGH SCHOOL NEWSLETTER

世界を模した「2030SDGs」カードゲーム体験

探究科１年総合的な探究の時間

令和３年 12 月 17 日(金)，総合的な探究の時間に，探究科１年生がカードゲーム「2030 SDGs」の体験を通して，世界中で行われている持続可能な世界の実現の取り組みとその影響について考える学習をしました。今年度も「エコネットさばえ」の楳原秀典さんをファシリテーターとしてお迎えし，地域協働事業の一環として，地域にいながらでも可能な具体的な行動について学び，自分自身の行動について考える機会をもちました。

やりがい！情熱！お金！時間！

生徒 38 名が 13 チームに分かれ，与えられたお金と時間を使ってプロジェクト活動を行います。プロジェクトを達成すると別のプロジェクトカードを得て，世界の状況メーターに変化が加えられ，最終的にそれぞれのチームの目標と世界の SDGs 達成を目指します。「大いなる富」が目標のチームは，ゲーム終了時にお金を 1,200G 以上持っていたら目標達成，「貧困撲滅の聖者」が目標のチームは，青の意思(やりがいや情熱)を 10 枚以上持っていたら目標達成となります。

クラス全員で創りだす世界の経済・環境・社会の状況を表す３色のマグネットがそれぞれ 10 個以上で，皆で創りあげた世界の SDGs 達成となります。

一人のアクション，世界が変わる

ゲームのスタートは 2016 年，前半９分の終了時点で 2023 年の世界ができあがります。前半は，まずは各チームが自分の目標に向かってプロジェクトを実行していました。順調に目標に向かうチーム，なかなかゴールが見えないチーム，その中で世界の状況の変化にハッとした表情を見せて相談を始めるチーム，それぞれのチームが村や地域や国となって世界を変えていきました。

前半を終了し，2023 年の世界は経済 24・環境１・社会１，目標を達成したチームは４チームでした。経済活動は絶好調の反面，環境はゲリラ豪雨や大型台風の多発など危機的状況，社会は分断し絶望的な状況です。前半を踏まえての後半 13 分では，他のチームと討論したりカード交換の交渉をしたり，またプロジェクトの共同実施を呼びかけるチームもあり，一人ひとりが活発に行動をおこし，世界全体がとても盛り上がりました。

結果後半を終えて 2030 年の世界の状況は，経済 19・環境 11・社会 12 で SDGs 達成！目標を達成したチームは 12 チームでした！

楳原さんとゲームを振り返り，前半と後半で変わったこと，もっとどうしたら良かったか？意見を出し合いました。各々のチームができること(もっているもの)をオープンにしたら，全チームが目標達成できたし，より連携した大きなプロジェクトが達成できた，との意見に，現実社会と通じるものを実感している様子でした。

生徒の感想

◦人と人・国と国が対話し協力することで，個人の目標達成やＳＤＧｓ達成ができると思った。
◦皆が幸せであることが自分の幸せになると気付いた。
◦経済・環境・社会，バランスを保ちながらの向上は難しかった。
◦お金の目標に固執していたら時間がなくなった。バランスが大事だと思った。
◦1チームだけ目標達成ができなかったけれど，他の全チームが協力すれば，その1チームを助けることができた，社会でも同じことが言えると思う。
◦全世界が協力することがＳＤＧｓ達成の近道だと感じた。

鯖江高等学校 Regional Collaboration
地域協働ニュース 2022年2月25日(金) 第19号
SABAE HIGH SCHOOL NEWSLETTER

消費者教育 出前講座

探究科１年 地域協働事業

令和４年２月 21 日(月)，鯖江市消費生活センター 相談員 清水優子氏，鯖江市市民相談課 参事 山田眞美子氏をお招きし，探究科１年生の地域協働事業の一環として出前講座を行いました。

まず，洋服や携帯電話を買う，コンビニでプリンを買う，将来家や車を買うなど，全てが消費活動であり，そこに契約が生じ責任も生じてくることを説明していただきました。

そして中学生から 20 代前半が詐欺にあいやすいという，脱毛美肌・痩身スムージーの広告が示され，問題と思われる表示をグループで出し合う作業を行いました。実際鯖江市内だけでも，月に２件以上の契約トラブルによる相談が寄せられているそうです。

不当表示広告として　●効果には個人差があるはずなのにその記載がない ●“あの有名人・アスリート”と書かれているのに名前の記載がない，など，しっかりと問題点が挙げられました。

商品を購入するとき，契約をするときに，HP アドレスや広告の写真を残す，電話番号を確認するなどの癖づけをしてほしいということでした。HP アドレス https の s が付いてなかったらセキュリティが危ういことなども学びました。

一度立ち止まって考える

清水相談員のところにも，美容関係の相談がとても多いそうです。体の仕上がりは保証されない上に，絶対に元に戻すことはできない。施行に伴うリスクもよくよく考えて，一度立ち止まって考えることが大切である，そして新成人 18 歳以上は親の同意なく契約履行できるが，同時に未成年者取り消しができないリスクも負っていることなどを，親身に講義していただきました。近年世間話や恋愛からライン交換をし契約をしてしまった，などのトラブルが数多くあり，法律も社会も追いついてない事例がたくさんあるそうです。アンケートを元に自分がピンポイントで狙われたり，よく分からない投資に誘導されるなど，常に危機意識をもつことが大切ということでした。

一定の期間内であれば無条件で契約を解除できる制度“クーリングオフ”は，訪問販売や電話勧誘販売では使えるが，自分の意思で契約を行う通信・ネット販売では使えない，生徒から質問のあった，メルカリなどの個人取引やオークションサイトでもクーリングオフ制度は使えないそうです。

きっぱりと断る

まとめとして　◆よく分からない時には必ず複数人で契約を確認する ◆よく調べて納得をした上で契約を行う　◆我慢することも肝要　◆きっぱりと断る，など確認しました。

何かおかしいと感じたら直ぐに，消費者ホットライン【１８８】，若しくは消費生活センターに迷わず連絡をしてほしい，そして万が一家族が被害にあっても絶対に責めない。家族に責められることが騙されるより何よりつらい(!)ということでした。

後半は，山田参事よりエシカル消費についての講義を受けました。鯖江市が取り組んでいる事業である，建築などに使えない端材や間伐材を活用した割り箸を一人一膳いただき，生徒は温もりの感じる割り箸を手に取り，取り組みを肌で感じてました。

エシカルマークをグループで確認し，最後にフードドライブ事業について学びました。鯖江市ではフードドライブ事業を昨年 12 月に３回目を行い，使わない食品や備蓄品を商工会議所や農協，自衛隊などの色んな事業所や個人から集めて，必要としている施設や個人にお分けしたそうです。2500 点以上の食品，500 キロを超える米が４日間全て午前中でなくなる程，需要が多いということでした。次回は６月に行う予定で，家で使わない食品，余っている食品を持って行って少しでも鯖江市の事業に協力したいと生徒は感想をもちました。

鯖江高等学校
Regional Collaboration
地域協働ニュース
2022年2月28日（月）第20号
SABAE HIGH SCHOOL
NEWSLETTER

こどもたちに伝えたい「ＳＤＧｓ」

普通科２年 鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト

令和４年２月２５日(金)，普通科２年生が取り組んでいる「鯖江市ＳＤＧｓ探究プロジェクト」の一つとして，惜陰小学校とオンラインで接続し，小学３年生のこどもたちに鯖江市のＳＤＧｓの取組みについて知ってもらう交流会を実施しました。

はじめての小学生との交流

鯖江高校普通科２年生は，これまでに鯖江市や地元の企業の協力を得ながらＳＤＧｓを啓発していく活動をしてきました。その取り組みの一つとして，小学生にもＳＤＧｓについて知ってもらうために，本校のすぐ近くにある惜陰小学校３年生との交流会を計画しました。小学生との交流会は，本校でははじめての取組みで，生徒たちもいつもの発表とは違った対応をすることに少し戸惑いもあったようですが，小学生にあわせた内容や方法を考え，意欲的に準備をしてきました。当初は高校生が小学校に訪問し，紙芝居やクイズ，廃材を利用したおもちゃなどを使って，小学生と直接触れ合って交流をする予定でしたが，コロナ禍の影響でオンラインでの実施となってしまいました。しかし，大画面のスクリーンに映し出された姿やスピーカーから聞こえる歓声から，本校の生徒たちも惜陰小学校の児童たちもとても楽しく交流ができたようで，充実した交流会となりました。

ＳＤＧｓって知ってる？

今回の交流には６グループが参加し，ＳＤＧｓ啓発動画をはじめ，環境問題・食品ロス・ごみ問題・眼育について，小学生に分かりやすいように，スライドのイラストや文字などの工夫をして発表しました。

まずは「ＳＤＧｓって知ってる？」という質問から始まり，それぞれのグループが小学生の様子を見ながら説明をしていきました。小学生がメモをとりながら説明を聞き，クイズや質問のときはみんなで手を挙げて反応してくれるなど，真剣にそして楽しく活動に参加してくれたので，高校生たちもとても満足そうでした。

この交流会を通して生徒たちは，誰に向けてプレゼンテーションをするのかをしっかりと意識し，聴衆に合わせた内容や話し方を考えて実施することが大切だということに気づけたようです。今後また，別の活動でも小学校との交流を続けていきたいと考えています。

小学生の感想より

・ＳＤＧｓはあまり興味がなかったけど，動画を見て詳しく調べたくなりました。
・ごみのリサイクルが 10%しかできていないので，もっと気を付けたいと思いました。
・９人に１人が飢餓に苦しんでいることが分かり，募金とかで手伝いたいと思いました。
・いつも捨てていたペットボトルについて，使えるものは工作とかで使いたいと思いました。